

「月夜のオーロラ(1)」


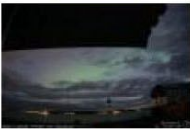










お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私はもう15年も、仲間とオーロラの遠隔観測を続けている。社会人の旅行者が冬の北極圏に滞在できるのは、せいぜい1週間程度で、その間にすばらしいオーロラに出会えるとは限らない。それならば、現地にカメラを設置して、日本から観測をしよう!という単純な動機で始めたことだ。

2019年9月

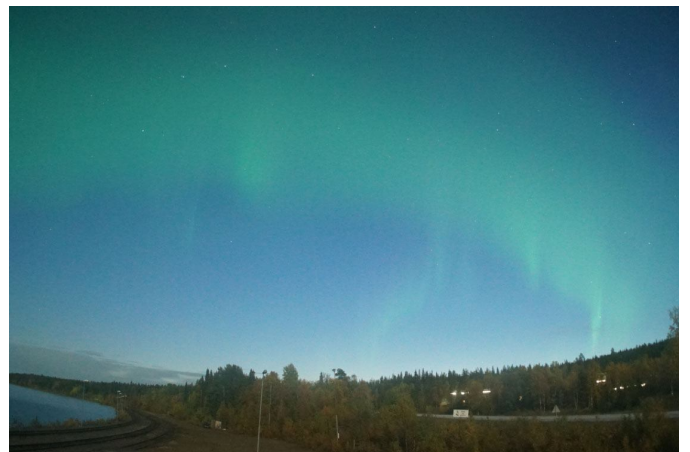
 Archives	1日	Cloudy	10日
 Archives	2日	Cloudy	11日
 Archives	3日	 Archives	12日
 Archives	4日	 Archives	13日
Cloudy	5日	 Archives	14日
 Archives	6日	 Archives	15日
 Archives	7日	Cloudy	16日
 Archives	8日	Cloudy	17日
 Archives	9日		

現在は6台のカメラが常時稼働し、年間数百万枚の写真を日本のサーバーに転送し続けている。毎年白夜が明けて、少し夜が長くなった8月下旬からが、観測地(スウェーデン・ヨックモック郡)のオーロラシーズンの始まりだ。今年のオーロラは出だしから好調で、左写真のように、完全に曇った日以外は、すべての日でオーロラが出現している。



オーロラは淡い光芒で、弱いものは天の川と明るさがあまり変わらない。観望(肉眼での観測)にとって一番の障害は雲、二番目が人工光だ。快晴の晩、街から離れた大雪原のような場所が一番良い。そして月明も妨げになる。しかし、私は数年前から「月明のオーロラ」に魅せられている。

たとえば上の写真は、十五夜の晩のオーロラだ。長時間露光なので、昼のように見えるが、これは月明かりである。その月明の空に、消えそうなくらい淡いオーロラが浮いている。



同じ日の北側のカメラの画像。こちらも月明の青空に、淡いオーロラ(アーク・オーロラ)が、アーチ状に浮いている。月明のオーロラの魅力は、この限りなく透明感のある美しさだ。月のない暗夜では見られない「究極の美」だと、私は思っている。